

氏 名	YEASMIN SHAMIMA
学 位 の 種 類	博士（医学）
学 位 記 番 号	甲第335号
学位授与年月日	平成22年3月18日
審 査 委 員	主査 教授 本間 良夫 副査 教授 鈴宮 淳司 副査 教授 塩飽 邦憲

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

卵巣癌を含む幾つかの癌において bric-a-brac tramtrack broad complex domain を有する NAC-1 遺伝子が高発現して、この発現が癌の再発と関連していることを当研究グループは明らかにしていた。本研究において、申請者は子宮頸癌における NAC-1 遺伝子発現の意義について検討した。NAC-1 の発現を免疫染色で解析した。9 例の normal cervix と 3 例の carcinoma in situ においてはすべて陰性で、84 例の squamous cell carcinoma(SCC) においては 13%、12 例の adenocarcinoma/adenosquamous cell carcinoma においては 50% の陽性を示した。この結果は、real-time PCR 法による mRNA の解析によっても確認された。SCC の患者において、NAC-1 陽性例は統計的有意に予後が悪かった。有効な予後因子になり得ることを多変量解析により確認した。さらに、NAC-1 の発現を siRNA の処理により低下させるとアポトーシスが誘導されること、NAC-1 発現のない細胞に NAC-1 を強制的に発現させることで細胞増殖が促進されることから、がん細胞の増殖・生存に NAC-1 が重要な役割を果たしていることを示した。